

平成24年度第2回佐倉市公民館運営審議会会議要録

日時：平成24年10月25日（木）午後2時00分～午後4時00分

会場：中央公民館

出席者：佐久間昭委員、川上良輔委員、鷹野千恵子委員、酒井孝子委員、大野直道委員、高梨直子委員、浅井俊彦委員、奥津友子委員、慶田康郎委員、坪井浩委員、芦崎徹委員、川村健委員、福山重雄委員、松井強委員（14人）

事務局：中央公民館長・富彌孝信 和田公民館長・木村武雄  
弥富公民館長・山本和子 根郷公民館長・井筒弘行  
志津公民館長・小林雅美 臼井公民館長・柳田晴生  
社会教育課・藤田敏明社会教育主事、荒井誠主査補  
中央公民館・猪股佳二副主幹、室岡秀樹主査補

---

開会 14:00

1 開会

2 委員長あいさつ

3 議事

(1) 平成24年度事業評価について

資料に沿って、社会教育課藤田社会教育主事から、公民館事業評価について説明

質 疑

委 員 : 事業評価の方法は、佐倉市独自か。他市町村の評価の仕方と比較されたのか。

藤田社教主事 : 行政評価については他市でも行っているが、公民館の事業評価については先進的な取り組みであり、昨年度、一昨年度ぐらいから始めた時には事例がなかった。

荒井主査補 : 社会教育法改正の時に国で指針を出すと言っていたが、具体的な評価の方法について指針は出ていない。この評価方法は佐倉市独自に考えたもの。いくつかの市町村で実施しようとしているが、本稼働しているところはまだ少ないと思う。

委 員 : かなりモデル的なものと考えてよいのか。他市ではこれからというこ

- とであれば、教えてほしいという話もあるのではないかと。
- 荒井主査補 : その可能性もあると思うが、他市のいくつかの施設に意見を聞いたところでは、これでも難しいという声を聞いた。佐倉市でも、試行錯誤しながら行っているが、修正をかけてもう少しわかりやすくしたいと思う。
- 委 員 : これを実施するのはかなり大変ではないか。時間が相当かかるという感じがした。
- 委 員 : 昨年、試験的に行ったが、やはり評価というのは非常に難しいということ強く感じた。事業担当者から説明を受け、その説明を受けながら事業評価するが、その場ではとてもできず、各自が持ち帰り評価を行った。今回もその場ですぐ評価をするのではなく、各委員の考えをまとめた後、評価欄を記入して後日提出するかたちになるのか。
- 委 員 : 各自持ち帰って評価するとなると、かなり時間がかかるのではないかと。また担当者に改めて話を聞くなどの取材が必要になるのか。
- 委 員 : 事業担当者から細かい説明はあるので、その内容を吟味して評価することになる。
- 委 員 : われわれ委員が評価するのは、館長が作成したペーパーを見て評価するということか。であれば実際公民館でどういったことをやったのか現状がつかめない。資料を見て評価をやるしかないのか。
- 荒井主査補 : もちろん、委員の皆さんが直接事業を見に来ていただくことは一向に構わない。職員の励みにもなるので、公民館にお話しただいて、是非現場を見に来ていただきたい。
- 委 員 : 委員としても現場を見る努力は必要かと思う。あと資料1の中で、「限られた予算を効率的・効果的に」とあるが、佐倉市で公民館についている予算というのはどのくらいになるのか伺いたい。予算の付き方によっても事業評価のやり方も変わってくるかと思う。
- 富彌館長 : 予算については、本日お配りした公民館のまとめの11ページに、公民館の決算が21年度から記載されているので参考にさせていただきたい。
- 委 員 : 評価シートⅠ・評価シートⅡは、個々の事業について出されるのか。また事業評価報告会では事業担当者から事業の説明が行われると考えて良いか。
- 富彌館長 : 2月21日の事業評価報告会では、担当者から事業説明のプレゼンテーションを行い、それを聞いて評価をしていただく形になる。先ほど説明があったとおり、事業計画をご覧ください、実際に見たい事業等があれば、公民館にお話しいただきたい。
- 藤田社教主事 : プレゼンテーションを行うのは各館における代表事業になる。それ以外の事業については、資料5の様式に詳細を記載して配布することに

- なる。
- 委員 : 新規事業の話になるが、新しい事業を企画しようとした時はどのような手続きになるのか。
- 富彌館長 : 各事業は各館に任されていて、地域の声やアンケートの結果をもとに来年度の事業を計画することになる。担当者が考え、館として地域における課題などが適切に行える事業であれば実施している。委員の皆さんには事業計画や、この後の議題である「平成 25 年度事業に向けて」で意見を述べていただくか、直接公民館に言っていただくことになる。
- 委員 : 新しい事業を入れることは、予算もあるし、職員も忙しいので、なかなか難しいと思う。新しい事業はやはりそう簡単には入ってこないものなのか。
- 富彌館長 : 新規事業は、いろいろな要請のなかで、やらなければならない事業を行うことになる。新たに事業を行うには、予算配分のやりくりの中で、既存事業の見直しなどをし、新たな事業を実施することになる。
- 委員 : 評価も大事だが、その事業が本当に必要なのか、目的は何か、何を狙っているのかを十分にチェックし、評価結果をもとに新しい事業を入れていくべきであると思う。新しい事業を入れずに、昨年度と同じ事業をただただやっている、社会のニーズと離れていってしまう。評価の中身についてはこれで十分であるが、一番初めの、事業の目的やねらいに重みをつけるべきではないかと思う。
- 委員 : 新しい事業については、いろいろと考えられていると思う。時代の流れの中で様々な問題が起こるが、この間NHKで携帯中毒を放送していた。これからも増えていくと思うので是非取り上げてもらいたい。また新規事業をやってもらいたい場合、委員の総合評価の所に書き込んでも良いのか。
- 富彌館長 : 事業評価は実施された事業に対するものになる。実施事業について、今後どう展開したらよいのかについて、委員に意見をいただくもので、新規事業については、事業計画等でご意見をいただきたい。
- 委員 : 行政評価にあるPCDAとは何か。
- 藤田社教主事 : PLAN、DO、CHECK、ACTIONの略になる。
- 委員 : 昨年事業評価をやらせていただき、プレゼンはわかりやすかったが、事業に行ってもいないのに、評価を書いていいものかと戸惑った。あっさり評価を書かれている方もいたが、それは現場を見ていないので評価ができずにそう書かれたのかとも感じた。代表事業がどの事業なのかかわかれば、実際に見に行くことができるので、事前に教えてもらえたらと思う。
- 委員 : 今回は、根郷、志津、臼井の3館の成人教育と団体育成について評価を

するということだが、成人事業と団体育成に複数の事業があるうち、評価するのは、プレゼンされた1事業になるのか。それとも例えば成人教育で3つの事業があった場合、3つの事業全てを評価するものなのか。

藤田社教主事：プレゼンをするのは代表事業になる。その他の事業については資料5にあるとおり、一覧にして両方を合わせて評価していただくことになる。

委員：成人教育と団体育成について、今年は、根郷・志津・臼井公民館が対象とのことだが、代表事業がどれにあたるのか教えていただきたい。

井筒館長：公民館の主事部会で決めることになるが、まだ決定していない。後日決まり次第、中央公民館から委員の皆さんに報告する。

委員：既に終わったものを後で話を聞いてもしかたがない。まだ終わっていない成人教育と団体育成の事業について、今年は、根郷・志津・臼井公民館が対象とのことだが、代表事業がどれにあたるのか教えていただきたい。

委員：今のお話は、評価について事業を予めピックアップして行うということか。先ほどの説明の中では、報告される代表事業以外についても評価をするとの話であったが。

井筒館長：2月に発表する事業について事前に委員の皆さんにお伝えし、各館にお来しいただければと思う。また代表事業以外については資料5の様式で一覧にしてお知らせしたい。

委員：昨年試験的にやられたとのことだが、一番感じられたことは何かをお聞きしたい。

委員：とにかく初めての経験であったので、試行錯誤的に行った。まず各事業担当者のプレゼンを受け、その後質疑応答があり、事業内容についてはよく理解が出来た。評価となると、私個人としては、参加人数や、事業の後の効果で考えざるを得ないが、委員によってそのあたりの評価の仕方も異なる。ただ数字だけでみて良いものどうかとも思うし、やはり目で見て、聞いてみないと評価というのはしづらく、そのあたりの難しさを感じた。

(休憩) 15:15～15:25

## (2) 平成25年度公民館事業に向けて

中央公民館長から、事前配布資料「平成24年度公民館事業中間報告」を参考に来年度事業について各委員から意見をもらう旨を説明。また、コミュニティ事業について説明。

## 質 疑

- 委 員 : コミュニティカレッジ事業について、現在の状況について教えていただきたい。
- 荒井主査補 : ハード面では、千代田小学校の進入路の舗装工事、トイレの洋式化を夏休みに行った。現在は駐車場へのアプローチの街灯設置を行っている。2月をめどに、机、イス、視聴覚用具の整備を行っていく。またカリキュラムの編成に関して、1年次の人間学については敬愛短期大学に協力をいただくよう話を進めている。2年次の地域学については、法政大学との調整を行っている。
- 委 員 : 根郷公民館の人材育成の3つの事業について、それぞれの応募状況と内容についてお聞きしたい。
- 井筒館長 : まず学生ボランティアの育成については、通学合宿が学生ボランティアの育成になる。中学生は根郷中、南部中から16名、高校生は佐倉南校から10名の協力があった。現在、高校生は佐倉南高校に限ってお願いしているが、通学合宿もだいぶ地域に浸透し、地元の通学合宿に参加した高校生がボランティアに参加したいとの声もあるので、検討しながら今後拡大していきたいと考えている。次に講師の公募は、公民館だよりで何か教えられる人を募集し、歴史関係、地域散策関係で2名の方が講師として登録をしている。最後のボランティアの育成については、「郷土史」「パソコン教室」「花壇の整備」のボランティアを募集し、パソコンで10名、環境美化で10名の方が登録をしている。
- 委 員 : 志津公民館の成人教育事業「しづ市民大学」は全て定員に達しているが、なぜ人気があるのか。
- 小林館長 : しづ市民大学は、定員40名で、おやじの食事学は30名で行っている。最大限の人数で募集をかけているが、倍率は約1.5倍程度で年々高まっていて、来年も今年以上の応募があるのではないかと。人気が高い理由については、団塊の世代の方が増えてきていること、また市民カレッジに落選した人が応募してきていることが考えられる。
- 委 員 : 応募が年々増えているということは、それだけニーズが高いのだから、規模の拡大や、何か変えていくということはないのか。
- 小林館長 : 2年制にできないかなどいろいろと検討しているが、やはり施設の人数があるため、40名程度が妥当になる。昨年度44~45名というところもあったが、多すぎという反省があった。今後公民館の建て替えが行われ、公民館の規模次第では定数が増やせる可能性もあると思う。
- 委 員 : 公民館だよりの発行について、頻度や部数が各館で異なるが、その理由についてお聞きしたい。

- 富彌館長 : 中央公民館は年 1 回 500 部と回数も部数も少ない。配布は各世帯に配布することが理想であるが、事業が市内全域を対象にしているので、年 1 回市民カレッジの募集時期に各公民館への配布を行い、その他はホームページや広報が中心となる。
- 小林館長 : 志津公民館は年 3 回、1 回につき 25,000 部、志津地区の各世帯に配布している。志津公民館のような小館では、参加者の募集については広報をあまり使わず、公民館だよりによる募集が主である。
- 委 員 : 通学合宿は 3 泊 4 日で実施しているが、その費用はどのようになっているのか。
- 富彌館長 : 費用は参加者から参加費 3,500 円をいただきまかなっており、ボランティアの謝礼金のみ支払っている。
- 委 員 : テレビで通学合宿を報じていたことがあり、共同生活が成果を上げているとのことであった。良い事業なので是非続けてほしい。  
もう一つ、和田公民館の長命大学と、根郷公民館の寿大学について、これは市民カレッジと似たような事業になるのか。
- 木村館長 : 和田公民館の長命大学については当初はいくつかの講座をもって行っていたが、現在では参加人数が減ってきていることもあり、手芸の講座と一般の参加者を交えた交流会を行っている。
- 井筒館長 : 根郷公民館の寿大学については、年 10 回第 3 水曜日に、歴史や社会見学、音楽、映画鑑賞、グループ討議などの講座を実施している。高齢者の居場所づくりを目的としており、現在 143 名が在学している。運営方法と内容については事務局と運営委員で決定している。
- 委 員 : 募集人員は 120 名となっているが、143 名というのは。
- 井筒館長 : 昨年まで 120 名で受けていたが、運営委員から 10 名ほど落とすのであれば、増やそうという意見があった。実際どの位の人数が適切かもわからないので今年は応募があった 143 名全員を受け入れている。
- 委 員 : 根郷公民館の人材育成事業の応募方法についてお聞きしたい。
- 井筒館長 : 講師の募集については公民館だよりでなるべく地域・地元の講師ということで募集をかけている。特に佐倉学については地元の人を中心にお願いし、費用も無料をお願いしている。また、寿大学などの事業でも声かけを行っている。

#### 4 その他

第 64 回千葉県公民館研究大会について事務局から説明

#### 5 閉 会 16:00